

(様式1)

平成27年度 学校評価結果報告書(高等学校用)

(1) 学校教育目標	(1) 自学自習 (2) 規律ある自由 (3) 体力の増進
(2) 現状と課題	目指す人間像として「もって生まれたものを深くさぐって強く引き出す人」を掲げ、知・徳・体の調和がとれリーダーとして社会に貢献できる人材育成を目指した教育活動を日々展開している。単なる知識修得ではなく、自ら考え自ら課題解決ができる生徒の育成を目指している。しかしながら、年々精神的に不安定な生徒が増えてきているので、それらの生徒を支援する体制を整えていく必要がある。また、高い志を掲げ困難に挑戦していくことができる生徒を育てることで、地域の中心校としての期待に応えていく必要がある。
(3) 重点目標	1. 一人一人を理解し、一人一人の能力を伸ばし、一人一人の進路を実現する学校 2. 努力して取り組むことを重視し日常化していく学校 3. 家庭・地域のニーズに応え、連携して生徒の進路実現を図る信頼される学校
(4) 結果の公表	本校ホームページのサイトに、保護者による「学校評価アンケート」、生徒による「授業評価アンケート」、学年・分掌に関して教員による「自己評価」の結果を掲載している。また、学校関係者評価として「学校評議員会」の議事録及び本報告書を掲載する。

学校番号	9
学校名	弘前高等学校
全日 制課程	本校・校舎・分校

自己評価実施日	平成28年1月21日(木)
学校関係者評価実施日	平成28年2月6日(土)

(9) -イ 学校関係者評価委員会の構成
学校評議員(5名) 有識者同窓生 1名、卒業生保護者 1名 有識者教育関係 2名、現PTA役員 1名

番号	(5) 評価項目	自 己 評 価			学校関係者評価	
		(6) 具体的方策	(7) 具体的方策による目標の達成状況	(8) 目標の達成度	(9) 学校関係者からの意見・要望・評価等	(10) 次年度への課題と改善策
1	一人一人を理解し、一人一人の能力を伸ばし、一人一人の進路を実現する学校	一人一人を理解するために ～個性とニーズの把握～ 一人一人の能力を伸ばすために ～学力の向上～ 一人一人の進路を実現するために ～出口保証～	UUテストの実施により学級集団や生徒個々の理解に役立て、支援を必要とする生徒の早期把握に努めた。またグループエンカウンター、学習状況調査、進路志望調査、さらにはいじめや体罰の調査など、生徒個々の理解のために学校全体が全力で取り組んでいる。また、生徒一人一人の学力向上、進路実現を目的に、各教員が面談に力を注いでいる。入学から最後の出口まで生徒一人一人の指導に向けて、教員は精一杯の努力を積み重ねている。指導法に関しても、研修を充実させ、アクティブラーニングを取り入れた授業改善に取り組んでいる。	A	生徒一人一人の成長のため、教職員は日々努力していると感じている。指導力向上を目指し、研鑽に努める姿勢は十分評価できる。それぞれのスキルを共有し合うことで、相互に高め合う教職員集団を目指してほしい。アクティブラーニング等を取り入れて授業改善に努めていることは高く評価したい。キャリア教育充実に向け、今年度新たに取り組んだ事については継続させてほしい。	生徒一人一人の理解、学力向上、出口保証については、これまでの指導方法を十分検討したい。改善や継続をしっかりと見極め、これからの教育活動に当たっていききたい。また、年々特別な支援を必要とする生徒が増えており、従来通りの指導では、上手く指導しきれないケースも出てきている。生徒理解のための方策を探りながら、問題解決に向けて様々な取り組みを行っていききたい。
2	努力して取り組むことを重視し日常化していく学校	努力して取り組むために ～克己と賞賛～	生徒が学習や特別活動など日々の活動に主体的に取り組めるよう、授業、総合的な学習の時間、学校行事等で効果的な指導を行うことができた。また、様々な機会を利用して、努力することの大切さやすばらしさを生徒に伝えることができた。しかしながら、目標を持って苦しんでいる生徒も少なからずおり、彼らには担任のみならず、教科担当者、養護教諭なども指導に深く関わった。	A	妥当な評価結果だと思う。ほとんどの生徒は高い志を持って本校に入学してくるが、日々努力し続けなければならない学校生活に、苦しみながらも前進を続けているものと思っている。一人一人の生徒に先生方が誠意を持って指導にあたってくださることには感謝している。これからも変わらずお願いしたい。	本校は努力することを厭わない、志の高い生徒が多くいる。彼らの前向きな姿勢をさらに高められるか否かは、我々教職員の指導にかかっている。生徒にとって主体的に努力することが当たり前なことと思えるように、様々な研修等を通して指導力を向上させていく必要がある。
3	家庭・地域のニーズに応え、連携して生徒の進路実現を図る信頼される学校	家庭・地域と連携するために ～情報公開～	地域の拠点校としての自覚は、生徒・教職員とも十分持っている。学校と家庭・地域・関係各機関との連携の重要性も理解できている。特に保護者との連携は重要であるため、面談等により情報の交換や共有に更に努めた。しかしながら、情報発信に関しては、工夫の余地があるものと思っている。	B	保護者とどう向き合うか、地域にどう貢献していくかは、どの学校にとっても大きなテーマだと思う。保護者との連携の在り方については、方向が見えていられると思われるが、地域との関わり方については、具体的にどのような実践をするべきなのかを検討した方がよい。	これまで同様、保護者との強い絆を作り上げていくことは当然なことである。また、新しい教育制度に対応するためにも、これまで以上に外部機関や地域との連携も強めていかなければならない。十分な情報発信を行い本校教育活動の周知や理解に努めると同時に、外部との効果的な連携を模索していききたい。

(11) 総括	創立130年を超え、多方面で活躍する数多くの諸先輩を抱える伝統校の一員であることを生徒は十分理解している。そして本校の生徒であることに誇りを感じている。伝統的に生徒の自主性を育むことに力を注いできており、生徒はそれに応え主体的な行動ができるように育っている。進路の達成については、最後まで努力を継続できる生徒がたくさん居り、学校としてぶれることなく、日々教育活動に邁進している。今年度実施した指導方法を十分に検討した上で、引き続き家庭・地域と連携を強め、生徒一人一人の主体性の育成と進路実現に向け、効果的な教育活動を展開させていくつもりである。
---------	--